

別紙2 特に推進する環境負荷低減事業活動（令和5年度～令和9年度）

生産力向上（経営課題解決）と持続性の両立の観点から、以下の環境負荷低減事業活動の普及を進める。

分野	品目	経営課題	推進する環境負荷低減事業活動の内容	期待される環境負荷軽減効果	基本計画に該当する部分
共通	全品目	肥料価格の高騰	土壌診断に基づく適正施肥の実施	化学肥料使用量削減	Ⅲ 1 要件
	全品目	肥料価格の高騰	有機質資材の利用による化学肥料使用量の削減 ・特殊肥料（堆肥等）や緑肥を利用する。	化学肥料使用量削減	Ⅲ 1 (2) イ Ⅲ 1 (2) ウ
	全品目	肥料価格の高騰	低成分肥料の利用 ・化学肥料の代替として、ペレット堆肥や混合堆肥複 合肥料を利用する。	化学肥料使用量削減	Ⅲ 1 (2) ウ
	施設園芸	燃油等高騰対策	ヒートポンプ等の導入 ・化石燃料を使用しない加温設備を導入し施設園芸 の省エネ化を進める。	温室効果ガスの削減	Ⅲ 2 (1) ①
	施設園芸	農薬費の削減	換気装置、循環扇、暖房装置等の積極的な活用によ り、病害虫の発生しにくい温度、湿度管理をする。	化学農薬使用量削減	Ⅲ 1 (3)

水田農業	麦、大豆	単収向上 肥料価格の高騰	小麦播種前のチゼル深耕の実施 ・排水性が改善され、肥料の吸収効率が良くなり、小麦や次期作の大豆の収量が向上する。	化学肥料使用量削減	Ⅲ (2) エ
	水稲	異常気象に伴う品質の低下 (一等米比率の低下)	三重23号(県育成品種)の導入 ・高温登熟性に優れる品種を導入することで、耐暑肥がなくとも品質が向上する。	化学肥料使用量削減	Ⅲ (2) エ
	水稲	異常気象に伴う品質の低下 (一等米比率の低下) 及び病害の発生	なついろ(県育成品種)の導入 ・高温登熟性や耐病性(いもち病)に優れる品種を導入することで、耐暑肥がなくとも品質が向上するとともに病害の発生を予防する。	・化学肥料使用量削減 ・化学農薬使用量削減	Ⅲ (2) エ Ⅲ (3) カ
	水稲、麦、大豆	収量・品質向上、倒伏防止	センシングデータ等に基づいた可変施肥 マップ情報に沿った可変施肥を行うことにより、生育ムラを解消するとともに、施肥量を削減する。	化学肥料使用量削減	Ⅲ (3) エ
	水稲	種子伝染性病害の管理 種子消毒廃液の処理	化学農薬によらない種子消毒技術 ・温湯消毒と微生物農薬を併用した種子消毒技術を導入する。	化学農薬使用量削減	Ⅲ (3) ア Ⅲ (3) エ
	水稲	難防除有害動植物(スクミリンゴガイ)の防除	スクミリンゴガイに対する耕種的・物理的防除 ・水稲作付終了後及び冬季に耕うんしロータリーで破碎するとともに、冬季に低温に遭遇させて発生量を抑制する。 ・浅水管理により被害を抑制するとともに、入排水口からの侵入防止対策を実施する。	化学農薬使用量削減	Ⅲ (3) タ
	水稲、麦、大豆	気候変動に伴う病害虫の発生への対策	ピンポイント農薬散布 ・ドローン等によりほ場における病害虫の発生状況を判定し、発生箇所のみ農薬散布を行う。	化学農薬使用量削減	Ⅲ (3) タ

野菜	施設野菜(果菜類)	薬剤抵抗性害虫対策 防除労力の軽減	天敵による害虫防除技術 ・ハダニ類、アブラムシ類等の微小害虫に対して天敵を利用して防除を行う。 (例:ミヤコカブリダニ、チリカブリダニ、	化学農薬使用量削減	Ⅲ
	施設野菜(果菜類)	薬剤抵抗性害虫対策 薬剤耐性菌対策	微生物農薬による病害虫防除 ・コナジラミ類、アザミウマ類等の微小害虫や、うどんこ病、灰色かび病に対して微生物農薬を利用する。	化学農薬使用量削減	ⅢⅠ(3)エ
	施設野菜(果菜類)	薬剤抵抗性害虫対策	天敵による害虫防除 ・ハダニ類、アブラムシ類、コナジラミ類、アザミウマ類等の微小害虫に対してカブリダニ類や捕食性カメムシ類、天敵寄生蜂類などの天敵を利用する。	化学農薬使用量削減	ⅢⅠ(3)エ
	野菜類	土壌病害対策 虫媒性ウイルス病対策	抵抗性・耐病性品種、台木等の導入 ・抵抗性・耐病性品種等の導入により、被害許容密度を緩和し、防除圧を低下させる。	化学農薬使用量削減	ⅢⅠ(3)カ
	野菜類	土壌病害対策	土壌還元消毒や太陽熱消毒の実施 ・土壌病害対策として土壌還元消毒や太陽熱消毒を実施する。	化学農薬使用量削減	ⅢⅠ(3)ク ⅢⅠ(3)ケ
	野菜類	土壌病害対策	土壌病害診断結果の活用 ・作付け前の土壌病害診断結果に基づき、発生リスクに応じて対策技術を選択する(ヘソディム)。	化学農薬使用量削減	ⅢⅠ(3)タ
	野菜類	有害土壌線虫対策 農薬費削減	緑肥作物の利用 ・有害土壌線虫の対抗植物として、又は害虫防除に有用な天敵温存植物として、緑肥作物を利用する。	化学農薬使用量削減	ⅢⅠ(3)オ

	野菜(育苗)	農薬費の削減 薬剤抵抗性病害虫対策	<u>被覆資材の利用</u> ・防虫ネットや近紫外線カットフィルム等を展張し、害虫の侵入や病原菌の孢子形成を抑制する。	化学農薬使用量削減	ⅢⅠ(3)サ
果樹	ナシ、ブドウ、カキ、モモ等	肥料価格の高騰	<u>根圏制御栽培・根域制限栽培の導入</u> ・根域を制限することにより、従来の栽培方式より、施肥量を大きく削減する。 ・特定の組成の培土を使い、根が培土内のみで生育する設備で栽培することで、肥料成分の流亡を低減する。	化学肥料使用量削減	ⅢⅠ(2)ア
	カンキツ(晩生種、中晩柑)、ウメ等	化学肥料価格の高騰	<u>化学肥料代替窒素源としての発酵鶏糞の利用</u> ・果実品質や成熟時期に影響のない果樹類又は果樹品種において鶏糞発酵堆肥を活用する。	化学肥料使用量削減	ⅢⅠ(2)ウ
	ナシ等	薬剤抵抗性害虫対策	<u>生物農薬による害虫防除</u> ・ハダニ類等の害虫に対して生物農薬を利用する。	化学農薬使用量削減	ⅢⅠ(3)エ
	カンキツ、カキ、ナシ、ブドウ等	肥料価格の高騰 農薬費の削減 雑草管理のコスト削減	<u>草生栽培の導入</u> ・ナギナタガヤ等のカバークロップの導入や、下草を適切に維持することで、草刈りや除草剤散布の回数を減らすとともに、天敵昆虫の温存や肥料の流亡を低減する。	化学肥料使用量削減 化学農薬使用量削減	ⅢⅠ(2)ウ ⅢⅠ(3)オ
		肥料価格の高騰	少肥適性品種の導入	化学肥料使用量の削減	ⅢⅠ(3)カ
		農薬費の削減	複合抵抗性(病害、クワシロカイガラムシ等)品種の導入	化学農薬使用量の削減	ⅢⅠ(2)エ
		農薬費の削減	バンカー植物の利用	化学農薬使用量の削減	ⅢⅠ(3)オ

茶	茶	輸出相手国のMRL(残留農薬基準値)への対応	微生物農薬の利用	化学農薬使用量の削減	Ⅲ1(3)エ
		輸出相手国のMRL(残留農薬基準値)への対応	気門封鎖剤等の利用	化学農薬使用量の削減	Ⅲ1(3)キ
		輸出相手国のMRL(残留農薬基準値)への対応	交信攪乱剤の利用	化学農薬使用量の削減	Ⅲ1(3)シ
		農薬費の削減	茶における裾刈り技術 ・(裾刈り・二番茶後浅刈りせん枝等の枝葉を刈落とすもの) ハマキムシ類、吸汁性害虫、炭疽病、輪斑病対策として、主に二番茶収穫後に枝葉を刈落とし発生源を除去する。	化学農薬使用量の削減	Ⅲ1(3)ソ
花き花木	花き・花木	肥料価格の高騰	少肥適性品種の導入	化学肥料使用量の削減	Ⅲ1(2)エ
		農薬費の削減 薬剤抵抗性病害虫の発生	病害虫抵抗性品種の導入	化学農薬使用量の削減	Ⅲ1(3)カ
	花木	薬剤抵抗性病害虫の発生	対抗植物の利用 ・ツツジ類連作障害対策としてクロタラリア等を利用する。	化学農薬使用量の削減	Ⅲ1(3)オ
		農薬費の削減	防草シート・防草資材(コンテナ植木)利用 ・雑草種子の混入を防ぎ、除草剤の利用を削減する。	化学農薬使用量の削減	Ⅲ1(3)ス
	施設花き	燃油等高騰対策	局所加温技術の導入	温室効果ガスの削減	Ⅲ2(1)③
		燃油等高騰対策	低温生育品目・品種の導入	温室効果ガスの削減	Ⅲ2(1)④